

刊夕日四月一十



定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
廣告料 五字一円 十字一円五角 二十字一円八角
日曜 祭日の日 休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日新聞印刷局

信仰身の上相談

眞 繼 雲 山

讀經の功德如何

【問】私は貴紙の『宗教欄』に私の奥底にひそんでゐたたましいを呼びさまされたやうな気がして近頃佛敎に近づき、何とか人らに信仰を得たいものと朝夕、佛前にもお経をさげ、無學のせい、か、讀經いたしましてその意味が皆目わかりかねます。意味がわからずとも功德はあるものでございませうか。（求道生）

功德必ず現成す

【答】佛前にお経をさげるといふことには大別して二つの意味があると存じます。第一は經文とは佛祖の説き遺しておいて下された教でありますから、讀經によつて、その教意を知らせていただくといふことである。第二は佛敎とは感謝報恩の生活でありますから、その報恩生活の表現としての佛前の讀經があります。貧乏をして病苦に悩みつゝ何を感じて病苦に悩みつゝどこか神様も佛様もヒマ

をやりたいとお考へのお方もありませうが、それは全然信仰が得られてゐないからであります。眞實、信心が得られて見れば病苦そのまゝ、貧乏そのまゝが感謝せずにはゐられないことになるのでありますけれど、これは入信後の體験でありますから、その問題は他日の機會に譲ります。

鬼もあれ、たゞへ貧乏病苦に悩んでゐるやうとも、若し之れに恩を感じ満足し得るならそれは幸福な生活であります。

如何に大臣富豪であらうとも天を恨み神を恨む不平憤怒の生活であるなら、その當人は不幸といふの外はあります。如何に大臣富豪であらうとも天を恨み神を恨む不平憤怒の生活であるなら、その當人は不幸といふの外はあります。

ノート

布についたアイロンの鐵サビをとるには茶さじ一杯のしう酸をコップ二杯の煮立つたお湯にとかしたもので熱いうちに洗ひあとを水洗ひします。

ありませぬ。外國の歴史には憤死した帝王すらあります。

意も諒解されてまゐります。但し宗教とは學問でなき故必ずしも漢學者のやうに字句を一々諒解する必要はありませぬ。

佛意——すなはち佛様のお慈悲が頂かれますならばそれが經典の深意を體得したのであります。

第一、第二の讀經とも深甚の功德必ずあること申すまでもありません。これは私の説明に聞かずあなた自身が感得せらるべき筋の話です。

【朝】なめもの——てつかみそ
【書】隼人汁——鶴肉、ごぼう、短冊大根、里芋、こせう
【晚】にしめ——かき、焼豆腐

はれ、恩を知ることが人の人たる第一歩であります。既にその恩を知つてみれば感謝せざるはあらねないその感謝のあらはれとしての禮儀が禮讃としての讀經つまり佛敎の勤行なのです。から、この方の意味では必ずしも經文の意味を知ることとは要しません。

等は吉なり猛進す、功れ吉を、變る事あれば、東西南北、名譽揚るか給料昇るかの吉兆を得る日なれば上目賢者順從か吉辰己と成亥凶【四縁】病氣の心配あるか家内に纏れ混雜あるか厄介者の爲に苦勞するかの凶日なれば萬事に注意【五黄】我望事を達せんとして反て凶を醸す事あれば目上賢者の意に順して吉成亥と辰己凶【六白】名譽の件か給料の件に付不和を來す事あれば高振らず謙遜吉東西凶【七赤】病氣怪俄紛失盜難に注意して未申丑寅凶【八白】我身屯底に陥り助けを呼ぶ様な事あれば水火の難にも注意南北凶【九紫】營業上大利を得るの吉日水火の難に注意南北凶

美味！ 芳醇！ 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

萬雷の拍手に迎えられ四隣を壓し非常時感激篇來る

主演 駒之助 昌之助 澤村昌之助 早川雪洲 川太 早川雪洲 川太 早川雪洲 川太

金子高價買入

根本時計店 電話六〇七番

西部開拓

大空の闘士 西部開拓

東京の米穀商を招き 石城米の品質を聴く

販路擴張の爲め此座談會

石城地方の移出米は逐年検査が嚴重な爲め品質優良のものが多いと移出増加の傾向があるが、平穀物検査所では此際東京市場に於ける販路擴張の爲め本月下旬頃同市場に見本米の品評座談會を開き、神田、深川、山の手方面の各米穀問屋を招いて、石城米の品質、乾燥、色澤等に就いて改良すべき意見の交換を行ふべく計劃中である。

我が國の 國防問題

新聞班の松井少佐 教育總會に講演

既報来る十二日午前十時より平第一小學校に於て開催される東部聯合教育總會の講師は陸軍省新聞班員陸軍歩兵少佐松井真二氏に決定したが、演題は「我が國の國防問題」である。

青春勇躍して 街頭に飛ぶ

昨日の驛傳競走 十六區分團優勝

既報平青年團主催の各分團對抗五千百メートル町内一周驛傳競走は昨日午後一時四十分各區より押掛けた。

紅葉の見頃

團體客で賑ふ

川前村夏井川溪谷の紅葉は丁度今が見頃となり、昨日の明治節には平驛及び湯本驛が募集した團體觀客五百名を始め、自動車等で乗り付けた觀客多數に上り、近年になり賑ひを呈したが、地元の前保勝會では江田信號所附近に無料休憩所や賣店等設けて觀客の觀迎に當つた。

軟式野球組合せ

昨夜キャプテン會で決定

既報明日午前九時より警中平商、第一各球場に於いて開催されるマルトモ主催第三回平町軟式野球大會のキャプテン會議は昨夜七時よりマルトモホールに於いて開かれ組合せ其他試合に關する種々打合せをしたが、第一回の組合せは左の如く決定した。

つたが出場分團は八チームにて戦績は左の如く十六區分團が十八分三十六秒の四と云ふ好記録でゴールに入り、遂に榮ある第一回目の優勝旗を獲得した。

- 1 十六區(廉又明 野口 一 五十嵐正一 鈴木友光 猪狩廣太) 2 紺屋町 3 城山 4 才樋小路 5 田町 6 新川町 7 長橋町 8 二十八催

警陽野球

決勝戦日取

既報昨日午後一時より警中球場に於いて舉行する管であつた警陽野球大會の決勝は都合により延期中の處來る十一日午後一時より舉行すると。

イナゴを採捕し

土浦に修學旅行

平青年學校生徒の自給自足

平青年學校では去月二十六日より一昨日迄全校生徒を各班に分けて近隣農村のイナゴ取を行ひ合計一石七斗を採捕したがこれを一斤十錢の割で賣り十六圓の收入を得たのでこれを元にして來る十日生徒二十五名が土浦に修學旅行を試み霞浦飛行場其他を見學すると。

兒童の新記録

平第一が測定

體育週間の行事に

して六日より四日間全校兒童の運動能力測定、八、九の兩日は公レコード測定會、十一日は町内一週の驛傳競走を催すと。

平稅務署

卓球優勝

相馬署と試合

既報平對相馬兩稅務署のピンポン大會は昨日の明治節を下し平署樓上に催されたが戦績は左の如く十四對六のスコアで平軍が優勝した(左表上は平、下は相馬)。

同 黒3—0 鈴木	同 黒3—0 草間
岡部 0—3 草間	佐藤武3—0 金崎
浦3—2 金野	浦3—2 金野
佐藤平3—0 武内	佐藤武3—0 武内
賀澤2—0 草間	賀澤2—0 草間
目黒2—0 草間	目黒2—0 草間
金刺0—2 今野	金刺0—2 今野
佐藤武2—0 粒來	佐藤武2—0 粒來
渡邊0—2 三浦	渡邊0—2 三浦
關根0—2 鈴木	關根0—2 鈴木
近藤0—2 武内	近藤0—2 武内
賀澤3—2 鈴木	賀澤3—2 鈴木
三品2—3 武内	三品2—3 武内
金刺3—0 粒來	金刺3—0 粒來
賀澤3—2 鈴木	賀澤3—2 鈴木
賀澤3—2 鈴木	賀澤3—2 鈴木
賀澤3—2 鈴木	賀澤3—2 鈴木

つてミシン其他の備品購入中であつたが此程全部購入品が取揃つたので近く一ヶ所に陳列生徒一同に觀覽せしめる事になつた。

平第一職員

籠球顔ぶれ

- 職員一同は來月三日同校グラウンドに於て濱三郡小學校教員の籠球大會が開催されるので必勝を期し早くも練習を開始したが出場メンバーの左の如くである。
- (A組) 佐藤 横田 松本 正 根本 菊 仲村 根本 榮 瓜田(B組) 武藤 井上 松本 政 上川 古川 水竹 松崎

大町青年火防

平町二十八區大町青年分團では

此程火防組を組織し役員を左の如く決定した。

兒童排球

申込がない

既報来る十九日午前九時より平第一校グラウンドに於いて開催される濱三郡小學校兒童のドッチボール大會は昨年の優勝久之濱校をめぐつて非常な接戦を演ぜられたるもの豫想中の處申込校は未だ一校もないので若し締切日である十五日迄に二三校に過ぎない時分は取止める模様である。

物すごい火舌に包れ 仁王佛のバラ／＼像

昨日の赤井嶽薬師火難 落葉焚きが原因

四日午前十一時頃發火した赤井嶽薬師として當地の名刹眞言宗智山派常福寺の火事は水利の便悪しき爲め寶物殿の土藏造りを一棟残すのみにて本堂を始め御札場、鐘撞堂、仁王門、賣店に至る迄十一棟を烏有に歸せしめ午後三時頃鎮火し手足をバラ／＼にして擔ぎ出した仁王像が炎々たる火焔の中に轉る様も物凄く平署の調査では損害十萬圓といふ原因は同寺住職京都智積院管長旭純榮師が來山する中で當日寺内外の大掃除を爲し境内の落葉を集めて留守僧の一人渡邊榮輝(三)が本堂前に焚火したのが折柄の烈風に吹きまわされて本

郷土の誇

烏有に歸す
千三百年の歴史

同薬師は千三百年前大同年間建立されて以來歴代の僧侶が苦心經營し明治十一年二月に一度焼失して以來再建に着手し明治廿四年三月第三十四世住職として現在の旭純榮師が就任工事を着々進行して明治卅一年七月一日現在の宏壯な全工事を竣功龍澄の昇る有數な名刹として郷土民の誇りとなつて居た

荒縄情死の 死は苦し

相手の女逃走

△……血眼の男も捕る

四倉町磐城セメント會社機械工本馬勝利(三)は豫ねてより馴染んで居た同町栢屋抱藝妓小光事山野邊ハナ(三)と馴染んだが妻子ある身で夫婦になれぬ處から去

を締めたが苦痛の爲め急に恐れを抱いた女が情死を拒んで逃げ出してつたので男は眼の色を變へて市内を探し廻つて居る内一日午後二時頃四倉署員に取押へられた

髮結を詐り 二百圓拐帶

辯護士の肩書で 財産整理が名目

實は前科十一犯の温泉荒し

平町五丁目女髮結業小銀治(三)さんは本年十月福島在の高湯温泉で自稱東京生れ藤原秀雄(三)と知り合つたが同人は辯護士法學士と稱する處から財産整理を依頼した處藤原は二三日前からさくらのざん方に來り滞在し二日午後六時半頃家人の不在中現金二百圓を窃取逃走したのでさくらのさん

殺人酒は ダイヤ印の

空樽を悪用

當店の品に其嫌疑なしと

大竹酒店主語る

形縣下に販賣された配事に關し同店の釋明する處に依れば左の如くである
本年四月山形縣米澤市香坂酒店の註文に依り當店の手を経て大日本清酒釀

明日のラジオ

今夜は北の曇明
日は北西の風天氣
良なる見込

今晩の部
後六、〇〇(子供の時間)
獨唱 千本濱ロロめい
小羊ハ叱られて
宮下晴子、宮下禮子、牧場、濱邊の歌
外敷
後八、〇〇(ピアノ獨奏)
前奏曲と進歩曲外敷
種 原千恵子
後八、三〇(地唄「曲鼠」)
三絃地 富崎春昇 三絃本手 富崎喜美子
後八、五〇(落語「芝濱の

明日の部
革財布 橋ノ圓
後九、三〇(時報 ニュース 氣象通報 番組預告)
前九、一〇(榮養料理献立 夕食豚肉の茶巾包み)
榮養研究所
前九、三〇(子供の時間) うたとおはなし 齋唱、おはなし 外敷種仙 喜能仁保兒園々兒、ピアノ獨奏、立花はな 指揮 白石玄淨

前二、〇〇 宗教講連
「正しい認識」法大、大本山薬師寺僧綱橋本龍胤
前二、一〇 移植民講座
(四)「南米事情と自作農 移住者」加藤好之
後二、二〇 新内「鬼怒川物語」(累身賣りの段)
浄るり、田中保二郎、三味線、鈴木長三郎、上調子黒須田隆次郎
後二、四〇(聲色と物真似) 聲色(吹寄せ)二、物真似(吳寄せ)吉岡貫一、市川榮藏
後二、五五 清元「夫婦酒替ぬ仲」鞍馬柳子
後二、一〇 義太夫「菅原傳授手習鑑」寺小屋の段
後二、三〇 新内「千日寺

調べ中であるが犯人は相馬郡石神村字大原生れ詐欺師盗前科十一犯藤田清次(四)と云ふ各地の温泉場荒しで辯護士法學士等とは眞ッ赤な偽りであつたと

磐女弓道會 磐女弓職員と生徒 道部では来る十一日午後零時半より櫻ヶ丘矢場に於て職員生徒ら弓道大會を開催する

造會社のダイヤ焼酎廿二石を販賣した事は事實です。是れは當店が同會社の東北特約店になつて居りますので香坂酒店は會社との間に直取引が出来ず當店を仲介して仕入れたのであります。直接同店に送荷されたので、處でダイヤ焼酎が嫌疑を受けたと云ふ點は實に迷惑です。ダイヤ焼酎は責任ある會社の醸造品だけに品質である事は申す迄もありません。ダイヤ焼酎の密造者がダイヤ焼酎の空樽に不良品を詰めて賣つたので此の爲めに大日本清酒釀造會社は尠らざる迷惑致しまして私共取引

盛大な婦人總會

安倍季雄氏の講演に感涙

既報平婦人會總會は昨日午前十時より第二校講堂に於いて開催集會者例年に増して多く朝賀宮妃殿下發喪の爲め協議其他を取止めて午後一時よりは安倍季雄氏二講演「この父の母」に感

動の涙を流し會我、山崎兩副會長の挨拶あつて午後四時開會した、尙ほ本日午後十二時半よりの平女子青年團總會には安倍氏の「この手を見つめて」と題する有益な講演があつた



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第八十一回 血に飢ゆる村正

グット回んだ女將

源久に紋吉の二人は三百兩の書附を見て大いに喜び源「旦那貴郎のお胸の晴れるやうに致して参りますからどうか此の證文を私共の二人へ預けて下さいまし」八ッ橋や榮之丞へ青い息を吹かしてやります

次「ハ一其の書付が何かになるか」紋「成る所ぢやアございません、確の證據でございません、之を持って葛屋へ行つて葛屋の夫婦に思ふまゝ云つて腹癒せをして夫から萬字屋へ飛び込んで、お前の家にアや盜賊が飼つてある強訴が居るとやッけて夫から會所へ行つて會所の四郎兵衛さんに屈けて奴等を皆會所へ引張り出して、赤ッ恥をかいた上金は揃へてキツト持つて参ります」

次「然う云つたら金はお前方二人に御進上申すから、只私の胸だけを晴らして下さい、就いて葛屋に此の間勘定はして來たが先の勘定が幾らかあるかも知れない是を持つてつて奇麗に」



と、三十兩の金を源久に渡ししました、承知にしませんでしたと金は受取り證文は紋吉が預かりソコソコに暇乞ひをして吉原へ歸りました途中で一杯やつて景氣を付け突然仲ノ町の葛屋へ這入

つて参りました

源「今日は」仲「オヤ源久さん紋吉さん大層御機嫌で大景氣でございますねえ」源「ヘニ御機嫌が宜いから酒を飲んで歩きます、御機嫌悪くもア長い御駕籠へ乗つて避病院へでも行くで

と金を受取り、仕切判をした受取證を紋吉に渡ししました、紋吉は一應改めて請取をおさめ紋「家も繁昌で結構ですなえ、大分金も出來たと云ふ評判でございますせ」仲「延喜が宜いねえ、お金が出来たなんて却々お金といふ物は貯らないものだねえ」源「家なんぞが金がねえといふア嘘だ、此の葛屋の家ぢやアお客から取る勘定や祝儀の外に盜賊の上前を切るのが却々小さいことぢやアねえ」仲「源久さん大抵におしな人間が悪い、私の家で何時盜賊の上前を取つたねえ」源「何をいやアがるんだ、手前の家は盜賊より太いや」仲「何だといえ、幫間の癖にして茶屋看板を付けて居る家へ來て大きな聲をして、盜賊より太えとは何んといふ物のいひやうだ愚圖々々すると會所へ屈けて商賣を差し止めるから、其の時は泣ッき面をしなさんな」源「何を吐しやがるんだ、動ともすると幫間々々と口汚く吐すが汝の客に碌な客があるものか、盜賊でもしたり追剥でもする様な客にやア呼んで貰はねえが有難え、盜賊の上前を取つたといふ事が分らなけりやアいつて聞かせてやらうか、今日で丁度十日後だ佐野の大盡をおこわに掛て榮之丞の手を切つたと三百兩といふ大金を取つときやアがつて

ました」仲「此間調べて置きましたが十八兩と十二兩になりました」紋「オット十八兩と十二兩は此の通りどうぞ受取りをして下さい」仲「オヤ然うですか、夫ぢやア頂いてさます」

其の場で手を切らねえで其の上寄つて集つて旦那へ悪口するなんてえのは茶屋にねえ事だ」仲「何だえ何の事かと思つたら化物が三百兩手切をやるといふからやらしたのが何うしたのだ」紋「内儀さん夫ア不可ねえ俗に云ふ猿利口で其の場は何うかやつて退けたやうだが、榮之丞が筆頭で三百兩受取つたといふ證文を佐野の大盡に出したぢやアねえか、然うして見りやア三百兩の大騙りだ、お前達は詐欺師だ、是から會所へ行つて調べて貰ふから其の時に泣ッき面をするな」

木村外科科 院醫科外村木

平町五丁目橋際 自炊入院の便あり 電話三九〇

外科 醫學博士 渡部 義夫
小兒科 女 醫 渡部 きい子
内科
平町田町大通り(電話二七七番)
入院應需 渡部 外科

中村齒科醫院

平町 鍛冶町 七

待望 瀧の白糸 前後篇 公開
原作……(文豪)……泉鏡花
原……(文豪)……泉鏡花
回入江たか子・岡田時彦・村田廣壽・浦邊余子回



出づべくして出ざりし入江たか子の下町情緒物然も、待望熱して岡田時彦の神技名匠溝口監督の心魂を傾注せる指導に本年度第一級名畫として傑として輝く最高峰絶対白眉篇……
嵐寛壽郎・歌川八重子・淡路千夜子
鏡形平次 富籤政談 全十三巻
捕物奇談 富籤政談 全十三巻
右門に代つて登場する鏡形平次十八番手柄である……戦慄……怪奇……大情炎地獄
十一月 二・三・四・五・六・七・八・九・十・十一・十二
二日ヨリ 四日・五日・二回 (普通席) (三〇銭)
平町の映畫戲堂 世界館 電446